

万博展示・実物でもう一度

未来館、「みやくみやくとつなぐ展」で成果を未来へ

日本科学未来館では2月18日～4月13日まで、「みやくみやくとつなぐ展」万博とひらく未来」を開催している。

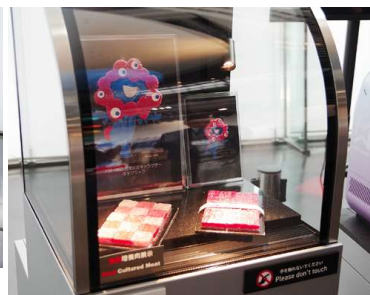
同展は、「未来社会の実験場」のコンセプトのもと、昨年4月から半年にわたり開催された「大阪・関西万博」を振り返り、その成果を未来へつなぐ企画の第1弾として開催される。会場では、万博で実際に紹介された「家庭で作る霜降り肉」や「iPS細胞による心筋シート」「AIスーツケース」等の先端科

学技術の実物展示を公開するほか、トイレや休憩所など万博会場内の施設における若手建築家の挑戦をパネルや模型で紹介。各展示には「問い」を設置し、来場者に万博のレガシーをどのように未来につなぐかを考えてもらう工夫がなされている。

また、SNSを中心に「こみやく」と呼ばれる二次創作が話題となるなど、市民の積極的な参加を実現させた万博の「デザインシステム」についてもプロポーザル資料などと共に紹介する。

家庭で作る霜降り肉

2月18日に開催



されたプレス内覧会では、同館展示デザイナーの宮原裕美氏と、「デザインシステム」制作の中心となったクリエイティブディレクターの引地耕太氏による特別対談が行われ、開催に至った経緯や同展の見どころが語られた。引地氏は「『ほぼ万博』な未来館で、万博に行った人も行けなかった人も来ていただけて、楽しんでいただけたら」と述べた。

自律型ナビゲーションロボット「AIスーツケース」



2月18日に開催されたプレス内覧会では、同館展示デザイナーの宮原裕美氏と、「デザインシステム」制作の中心となったクリエイティブディレクターの引地耕太氏による特別対談が行われ、開催に至った経緯や同展の見どころが語られた。引地氏は「『ほぼ万博』な未来館で、万博に行った人も行けなかった人も来ていただけて、楽しんでいただけたら」と述べた。



万博公式キャラクター・ミyakumiyakuと写真におさまる(左から)浅川館長、引地氏、宮原氏